

7/14(火)第2回もしもノート研修会 GW 模造紙まとめ

「地域でつなげよう ACP の輪～この地域での ACP 連携を目指して～」

テーマ 1 : 2人ワークで実践してみた感想,講師の話を聞いての気づき等

【1G】

- ・その時によって状況が変わる。自分で見つめ直す時間もある必要。1度の聞き取りではだめ。
- ・聞き方が難しい・相手との信頼関係・在宅だと話の流れで“これを聞かないと…”という思いだとなかなか話がふくらまない。
- ・医療的な部分の確認は病院の方がよい。
- ・お互いの価値観、考え話のとらえ方を医療・介護ですり合わせが必要。

【2G】

- ・変化（退院や入所時）の時に聞き出しやすい。話しやすい。
- ・質問の話の聞き方が難しい。
- ・聞くタイミング難しい。
- ・不安のまま話を聞いても平常心で答えられる？と思う。もしもノートがもっと普及しているとすすめやすい。
- ・信頼関係が築けていると、調子を崩した時でも話をききやすい。

【3G】

- ・関係性がないとむずかしい。
- ・取っ掛かり、切り出し方が言葉選びも含めて迷う（失礼はないか…とか）
- ・聞く相手の年とか病気によっても言葉選び難しい。
- ・複数でやるのと個1×1で状況はちがうのでは？
- ・聞く人の職種によっても、空気感も変わりそう。
- ・直接の結果に繋がらなくても、思いや考えを情報として役に立つもの。
- ・支援者の職（支援する側が既に障がいある場合も）によってハードルも高くなる。

【4G】

- ・今の年齢と高齢になったときとの思いの違いがあると思う。
- ・こういう便利なツールがあると初めて知った。
- ・家族同士だと言にくいかも、ヘルパーさんなど他人の方が聞きやすいかもしれないので、メモして後で家族に伝えられればと思った。
- ・ホームページで紹介してあるのは知っていたが、一般の方にはなかなか目に届かない。救急安心ボトルに入れたりなどすると、もっと復旧するのでは。
- ・高齢者が関わる仕事してるけど自分のこととして考えないと、人には聞けない。利用者はそこまで考えていないと思う。そういう場面をゲーム様式で話し合う場があってもいい。

【5G】

- ・使用するきっかけが難しいと感じた。
- ・医療職としてもハードルが高い。
- ・日頃のコミュニケーションの中で意識していきたいと思った。
- ・自分の考えを知るきっかけになった。
- ・性格や価値観、立場などで選択する内容が異なるということを知った。
- ・年を重ねることで考えが変わるかもしれない。

【6G】

- ・ステップ①→つなぎ② どう話をもってゆけばいいか…
- ・ステップの順ではなく、④から聞いてもいいかも…
- ・大切なことから、医療について話を聞くのが難しい。
- ・もしもノートをお互い持ってる、前提で話をするとやりやすい。
- ・他の人の経験、体験談をたとえ話として話をして、話題にしやすい。
- ・年代に応じたアプローチの仕方、あるかも、相手に合わせてきっかけとして、迷っている時“もしもノート”を出したり、やってほしくないことを聞いておくこと大事、ネガティブな方が聞きやすいかも。

【7G】

- ・2人で話してみても、自分が考えた事あるのか？となるとあまり考えてなかったなあ。
- ・末期の利用者様とか自分のように考えた時、「これから一緒にやっていきましょう」が間に合わない時がある。でも、早いとは違う。

人生会議について、日頃から自分で考える。＝大事

- ・⑩の主観的情報をちゃんと引き継いでいく。
- ・聞き出すというのが大切、テクニック＝大事
- ・最期のことをきくことは、聞きづらいかも。日頃から使い廻していきたい。
- ・その人の状態で見極める。
- ・作られた経緯がちゃんと知れた。患者様だったり、家族には大切だった。
- ・その人の希望を時間をかけて聞き出していくから、どうプランに組み込んでいくか。
- ・残しておくこと。
- ・今どうしたいか、18番を書くのは難しい、いつ聞かかタイミングが難しいと感じた。

テーマ2 : 地域で ACP 対話があたりまえになるためにできること
(明日から自分たちができそうなこと)

【1G】

- ・自分の意思の共有（家族と話を冷静にすすめてくれる人）
- ・日頃からの雑談の中で聞いていく，レクをしながら，楽しみながら，元気なうちに，グループで明るく話を聞いてみる。それをスタッフ間で共有する。
- ・普段の会話の中で“みなさんに聞いているんですが”という。
- ・地域住民へも ACP の理解をすすめていく。

【2G】

- ・市内全体のそれぞれの施設や場所で，もしもノートを紹介していくと，病気した時にノートを思い出してくれる。（コンビニとかスーパーにも置いておくとよい）
- ・支援者が，まず「もしもノート」を知ることが必要なので，仲間に今日の学びを広めていく。
- ・地域の若い人（学校等）にも伝えていくことで，家族に広まっていくのではないかな。
- ・身近なものになると良い。

【3G】

- ・身近な人から・既に親などにしている人も。
- ・あまり暗い空気ではしていない。
- ・家に入る職種と，病院は聞きやすいのか？→病院への情報提供
- ・信頼関係の構築が大切・本音を言える。（この人なら言える・と）
- ・時間の経過でも信頼度 UP するかも。
- ・定期的に聞くと更に濃い情報得られそう。

【4G】

- ・サマリーに利用者さんの言葉を書いて提供した。
- ・明るく会話ができる場，どこで（自宅で1対1だとしんみりしてしまう，利用者さんの性格にもよる）
- ・ACP についてなど，メモやノートがあり残された家族として（戒名も）後悔なくやってあげられてよかったと思う。

- ・次回の訪問時に，もしもノートの話や，思いを聞けたらと思う。
(⑩の1枚もの，万が一の入院時のために，聞くことになったと伝えてみる)
- ・市町村の SNS での発信。
- ・こういう事を話ができる環境づくり，小さいところ少しずつ。
- ・信頼して話ができる方。
- ・高齢者からではなく壮年期になったらでも良いのでは。
- ・もしもノートをもっともっと広めるには。

【5G】

- ・自分の家族と話してみる。思いを知る。
- ・普段からのコミュニケーションの中で意識してみる。→記録に残す。
- ・もしもノートの周知知ってもらう。
- ・自分たちが本人と家族のかけはしになる→橋渡し話すきっかけづくりの手助け。

【6G】

- ・勤務施設で利用者との対話、茶話会の形で、3回に分けてカードを用意して好きなことや価値観を振り返ることで、今の生活を充実も意識して→家族への共有や参加につなげたい。
- ・在宅←→施設←→病院 それぞれの立場時で、聞いた内容を引き継いでいくことが重要。
- ・取り組みを始めるために、ゼロから作るのは大変→ツールを活用したい。

【7G】

- ・地域向けに教室を開いた。→理解が深まった。知ってもらうこと。
- ・ACPに加えて、サービスを紹介したりして、地域の方に安心してもらう。
- ・もっと早くから考える時間を作る。
- ・自分ではなくて誰かのことで考えてもらう。
- ・普及啓発＝広げる
- ・発信できるように技術を身に着ける。
- ・地域で困っている人がいたら教えてもらえる地域づくり。(自分たちからの声掛けだったり)
- ・行った先でノートのことを知ってもらうよう動いてみる。